

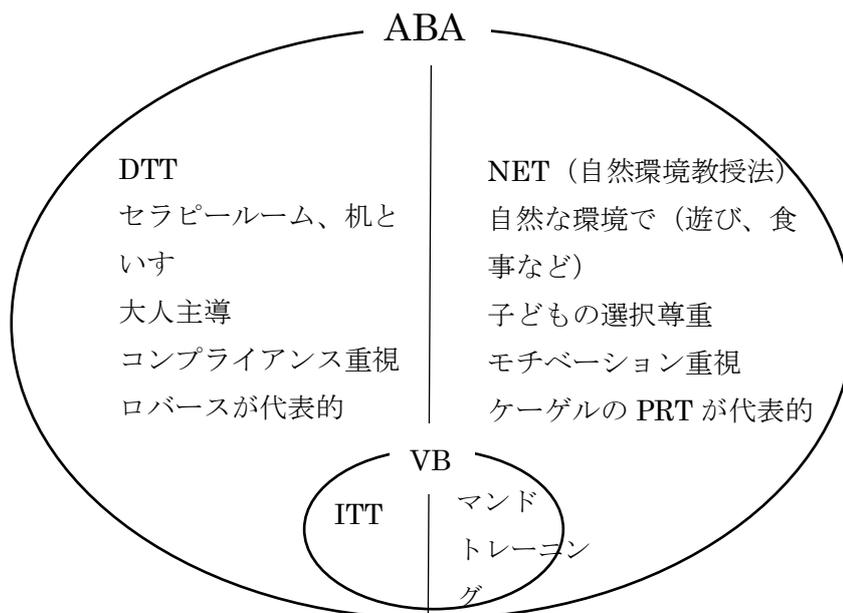
「VB 指導法」を読んで

2021. 11 東京定例会
藤坂龍司

1. VB 指導法とは

「VB 指導法」(Verbal Behavior Approach)。日本では単に「VB」と呼ばれることが多い。自閉症療育法としての ABA の中で、DTT(ロバース法)、PRT などと並ぶ、有力アプローチ。行動分析学の祖、スキナー博士による、言語行動の分析(「Verbal Behavior」)を自閉症・発達障害児のこたばの指導にフル活用しよう、という方法。

DTT と NET の特徴を併せ持ち、その中間に位置する。マンドトレーニング+ITT (VB 版 DTT) 便利なアセスメントツール、ABBS、VBmap を持っているのが強み。



2. スキナーによる言語行動の分類

スキナー博士は、話し言葉(言語行動)を、弁別刺激→行動→強化の三項随伴性の枠組みに当てはめたら、どう分類できるか、を考察した。その結果、次のような分類を行なった。

(1) マンド(要求)

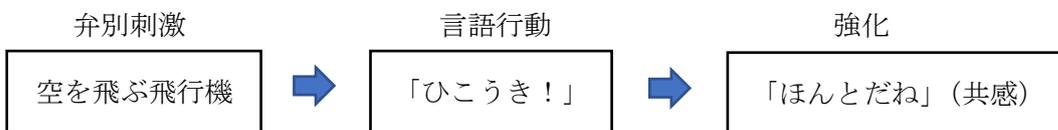
「マンド」とは要求表現のこと。demand, command からスキナーが作った造語。

スキナーによればマンドの特徴は、言語行動が強化子を指定するところにある。例えば「だっこ」という言葉は、「私は抱っこによって強化される」という意味。その結果、言語行動と強化子との間に一致がある。弁別刺激は様々でありうるし、弁別刺激がないこともある。機能は要求の実現。



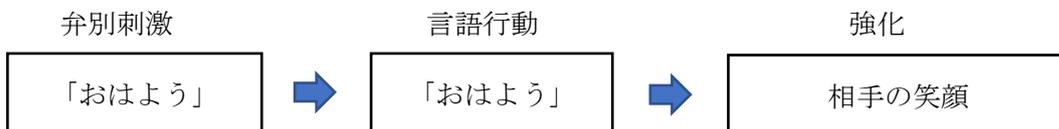
(2) タクト (叙述)

タクトは、外界の物や出来事が弁別刺激で、それを言葉にして、誰かに伝える。例えば空を飛んでいる飛行機を指さして「ひこうき！」と言い、ママに知らせるのが、典型的なタクト。タクトは contact から来た造語。外界の出来事と、それを知らない聞き手をつなげる、という意味。機能、つまり強化子は、聞き手からの共感や感謝、義務感の満足（「事故です」）、職業的使命感や金銭的報酬（アナウンサーのニュース朗読）までさまざまである。



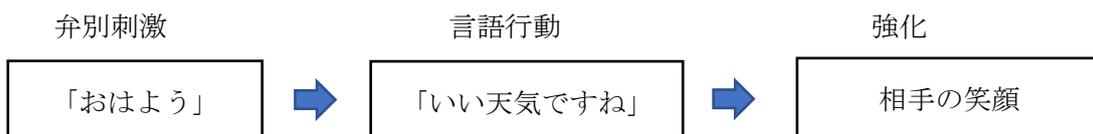
(3) エコーイック (オウム返し)

エコーイックと次のイントラバーバルは、いずれも誰かの言語行動（ことば）が弁別刺激である、というところに特徴がある。エコーイックでは、誰かの言語行動（ことば）が引き金となって、それと内容的に同じ言語行動（「おはよう」）が発せられる。強化子は自閉症児のオウム返しのような単なる感覚刺激から、あいさつにおける相手の共感・承認までさまざまである。



(4) イントラバーバル (応答)

イントラバーバルも誰かの言語行動（「おはよう」）が弁別刺激だが、それが引き金になって、それとは内容的に違う言語行動（「いい天気ですね」）が引き出される。強化子は、単なる感覚刺激（「1, 2の…」と聞くと「3」と言いたくなる「空欄補充」の欲求満足）から、会話における相手からの共感・承認、さらにはディスカッションにおける知的満足まで様々でありうる。



(VB はこれを「言語行動の機能的分類」と称するが、実際には機能に従って分類しているのではない。特定の機能（強化子）と結びついているのはマンドだけ。あとはむしろ弁別刺激と言語行動の関係に着目した分類である。)

3. VB 指導法の特徴

メアリー・リンチ・バーベラ「VB 指導法」(2021) 原著、M.L.Barbera, The Verbal Behavior Approach. (2007) より

(1) アセスメント

セラピーに先立って、まずことばをマンド、タクト、イントラバーバルなどに細かく分けて、現状をアセスメントする。模倣などの非言語行動もアセスメントする。

(2) 強化子を見つける

- ・第一になすべきは、子どもにとって強力な強化子を見つけること。p51
- ・教え手が扱いやすい強化子を選ぶ。最初のうちは大好きなおもちゃを強化子にするのはあまりよくない。強化子を撤去するときには闘いになることが予想されるから。それより、クッキーなら小さく割って1つずつ渡すことができる。
- ・VBを始めるときは、ほぼ必ずお菓子を強化子として使う。1回に与える強化子はできるだけ小さく割ったお菓子やごく少量のジュースにする。食べ物以外の扱いやすい強化子としては動画がある。

(3) 学習環境と強化子のペアリング

- ・ペアリングとは、環境、人、教材と、子どもにとってすでに強化子となっているものとの組み合わせる方法。p59
- ・セラピースペースを決めて、その場所と強化子とをペアリングする（強化子をこちらがコントロールして、その場所でしか強化子がもらえないようにする）p60
- ・強化子が決まったら、セラピー用の部屋や教材だけでなく、自分自身と強化子を関連づける方法を探す。p61
- ・すぐに使える強力な強化子をいくつか手に持って子どもに近づき、何の指示も出さずにその強化子を与える。
- ・最終的には立ち上がってあなたに向かって少し歩かないと強化子がもらえないようにする。p62

(4) マンドトレーニング

- ・まず最初にすべきは、特定の強化子を言葉または手話で要求することを子どもに学習させること。また模倣やマッチング、簡単なパズルなどを組み込むこともできる。63
- ・一度に一つのマンドだけを教えるのはよくない。過剰般化するから。まずは3つ～5つのマンドを教える。p71
- ・「もっと」や「ください」を教えるのもよくある間違い。「ください」「もっと」などのことばは抽象的な概念で、ことばに遅れのある子どもには理解が難しい。p71
- ・経験から言うと、最初にマンドを教えるときは、食べ物2つと遊び2つを選ぶのがよい。p72
- ・日常生活の中で、1日中マンドするようにすべきだが、1日に数回はマンドを集中的に練習する特別の時間を作る。p73

- ・ボールで楽しんでいるのが明らかになったところで（もっとやってほしそうにしていたら）、はっきりした声で「ボール」と3回言う。3回続けるのではなく、1回言ってから、1、2秒待ってからもう一度言う。p74

- ・マンドの練習中にティミーが「ボール」と模倣したり、自発的に言ったときは、いつでもすぐにボールの上でジャンプさせ、思い切りたくさんほめ言葉と強化子を与える。

- ・うまく行かなかった場合はどうするのか。大好きな強化子で何百回試してもマンドできないときは、言葉と手話のペアリングを始める。p75

- ・PECSは、かなり抽象的に描かれた絵カードを大人に渡す必要がある。運ぶのが大変で、かつ選ぶのに時間もかかる。どこに行くにもPECSブックを持って行かなければならないうえに、プールやトランポリンで遊びながらマンドの練習をすることはできない。p83

- ・子どもがマンドする機会を舞んち何百回と作る。p142

(5) 集中指導

- ・週に何時間かは集中指導を行う必要がある。p140

- ・集中指導 (intensive teaching session) は、通常机に向かって、速いペースで、教える対象を明確にして行い、データを収集し、VRスケジュールで強化するものと考えられている。しかしフロアやキッチンで行うこともできる。p143

- ・集中指導中は強力な強化子が必要だが、その強化子は子どもにマンドさせるのではなく、正反応に対する結果として指導者主導で与える。p143

<VBの集中指導の特徴>

①いろいろな課題を混ぜること。

- ・集中指導は、複数の言語行動と非言語行動（マッチングを除く）を流動的に混ぜて行う。p149

（例えば）「鼻さわって」の指示から始め（受容言語）、次に机の上に並べておいた何枚かの写真のうち、「トラックに触って」と指示し（受容言語）、さらに椅子の写真を指さして「これ何？」と聞いたりする（タクト）。そして最後にプロンプト付きの模倣、次にプロンプトなしで模倣させ、強化する。p150

- ・VBでは未習得の課題一つと復習課題を混ぜるだけでなく、複数の教えたい課題を同時に教える。例えば「この練習で教えることは車と靴をタクトすること、拍手と両手をあげる模倣、こぶたぬきつねこの空欄補充。それ以外は、ミーガンの習得済みスキル。」p151

②VRスケジュールで強化すること。

- ・VRスケジュールとは、強化子を不規則に間引くこと。強化子を定期的に間引くことはFRと言う。

- ・FRに比べて、VRの方が高いモチベーションが途切れずに続くことが分かっている。VBはそれを利用する。例えばVR5とは不規則だが平均すれば5回に一回強化すること。VR5スケジュールで強化する、とすると、例えばまず3試行して強化、次は6試行して強化、次は4試行。次は7試行で強化。次は5試行で強化、と、平均が5になるように、強化のタイミングを変えていく。